

vol.67

2021.11 甲府西高情報誌

西高のステージへ!

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

n stage

自分らしさ 深まる秋



西高でのICTの取り組みを紹介します

授業における取り組み

西高では、通常の授業でパソコンや電子黒板を頻繁に利用しています。また、感染予防のために集まって講演等を聞くことが難しい状況が続いているため、オンラインによる集会や講演会の機会を多く持っています。分散登校中は、各クラスで登校する人と自宅で学習する人を半数とし、自宅で学習する人は学校にいる時と同じように授業が受けられるよう、リモート授業を実施しました。



オンライン授業は、普段の授業とは違い、十分に理解できなかった部分を記録動画などで振り返ってもう一度見ることで、より学びを深めることができました。また、チャット機能を利用して気軽に意見を出せる点も、とても良いと感じました。 1年 姫野 爽士(梨大附属中)

検温丸

西高では、毎朝、個人で検温をし、学校へ検温結果をオンライン上で提出しています。検温結果を集約するとともに提出を生徒に促す機能を持った検温丸というプログラムを使用していますが、これは本校生徒が作製したものです。なお、検温丸はマイクロソフト社のホームページで紹介されています。



オンライン・オープンスクール

毎年夏に開催しているオープンスクールですが、今年は新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策として、オンラインでの開催となりました。生徒が企画・運営し、様々な工夫をして実施しました。



新たな試みとしてオンラインでのオープンスクールが開催されました。開催する上で、私たち代表の生徒で構成を考える際、特に意識したのは「わかりやすさ」です。そのために、進行を会話形式にして実際に話している様子に感じてもらえるよう工夫しました。当日は中学生からも積極的な質問もあり、オープンスクールは成功を収めることが出来ました。 2年 福田 怜央斗(明野中)

誰もが使いやすいものであること。「検温丸」はこの考え方を基に設計されています。このシステムの開発の始まりは昨年10月。振り返ってみれば、これは一種の探究活動であったと思います。何が正解か分からない中、開発はほとんど手探りでした。修正や改良の為に当時の担任の先生には何度もご協力頂き、全校運用というハードルを乗り越える為に多くの先生方のお力をお借りしました。そして功を制し、現在は、バージョンアップした「検温丸E」を全校生徒の皆さんに使ってもらっています。

「検温丸」がここまで発展できたのは、西高の自由度の高さと、生徒の能力を認めてくださる先生方がいたからこそだと思います。これまで、ご協力くださった多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、さらにプログラミングについて勉強し、多くの方が便利だと感じてもらえるようなものを作りたいと考えています。 3年 保坂 一希(橿形中)

第47回UTY教育美術展

過日行われたUTY教育美術展において、美術部の7名が入賞を果たしました。

【山梨県知事賞】3年 後藤 日嵩(甲府西中)

【山梨県教育長賞】2年 古屋 すずの(梨大附属中)

【テレビ山梨賞】3年 畑野 智咲(若草中) / 3年 矢崎 紗那(韮崎西中)

【佳作】3年 八巻 涼乃(梨大附属中) / 3年 廣瀬 もえ(敷島中) /

2年 デラクルズ アイエイシャレイ(上条中)



後藤 日嵩



古屋 すずの

全国高等学校総合文化祭に出場しました!

和歌山県で開催された総文祭。西高生が4部門に出場し、大活躍しました。

弁論部門



コロナウイルス感染拡大により作品のみの参加になりましたが、想いを伝える大切さを強く感じることができました。 3年 窪川 葵(山梨南中)

将棋部門



最後の全国大会では予選突破することができ、楽しかったです。これからも将棋を続けたいと思いました。 将棋部 3年 藤森 あかね(甲府北西中)

新聞部門



最下級生として参加した総文祭。全国の新聞部員とともに新聞を作るなかで僕は多くの刺激を受けました。とてもいい経験でした。 新聞部 1年 秋山 翔弥(御坂中)

合唱部門



合同合唱団として90人で声を重ねて今までにない迫力を感じました。交流も難しい中で頂けた機会に感謝し、今後も合唱を楽しんでいきます。 音楽部 2年 田邊 一葉(塩山北中)

第68回NHK杯 全国高校放送コンテスト

放送部

NHK杯にてテレビドキュメント部門と校内放送研究発表会の2部門で全国大会へ出場しました。

テレビドキュメント部門では、準決勝まで進み、制作奨励賞を受賞することができました。校内放送研究発表会は実際に対面で開催されることはありませんでしたが、インターネットを通じて、全国の高校生の前で、マイクの最も適切な使用方法に関する研究結果を発表しました。



大会の結果は副産物にすぎませんが、このような機会を得られて嬉しく思います。改めて、感謝の意を申し上げます。

放送部 3年 長澤 愛菜(増穂中)

インターハイに出場しました!

卓球部

私たち3年生にとって最後の大会となった全国高校IHは、全国から集まった選手のレベルの高さに圧倒され、会場は競技参加者の気迫と熱気に溢れていました。西高生の誇りを胸に戦ったことは、貴重な経験になりました。

3年 丹沢 恵菜(梨大附属中)

私たちは8月に行われた全国高校総体にシングルス・ダブルス・団体で出場しました。特に団体は西高59年ぶりということで、喜びと同時に西高の歴史の深さを感じました。団体戦での県の一枠を勝ち取ったという自信を胸に、自分の力を最大限に発揮できました。この経験を武器にこれからも頑張ります。

2年 倉崎 花(若草中)



体操部

今年度8月に行われたインターハイに個人として出場してきました。1年次に出場した時は全国の強豪が集まる場の雰囲気圧倒されるばかりでしたが、2度目のインターハイとなった今回は、悔しいミスもあったものの最後まで理想を追求し、演技することができました。昨年度のコロナ禍による中止は本当に辛いことでしたが、その期間があったからこそ自分をさらに高めたり、試合ができる喜びを改めて感じられたりしたと思います。両親を始めとして応援してくださった全ての方に感謝しています。ありがとうございました。

3年 竹鶴 夏冴水(白根巨摩中)





校長 初鹿野 仁

「判断」と「決断」～これからの時代に求められる力～

正解のない問いがあふれるVUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代には、これまでの既成概念では対応できない課題に立ち向かい、未来を切り拓こうとする力が求められます。そして、それには、総合的な知識と広い視野を備えた柔軟な知ともいべきものが不可欠です。

本校では、3年間の総合的な探究の時間を通じて、国際バカロレアの手法を取り入れた課題研究論文の作成に取り組んでいますが、これは、自ら課題を設定し、情報の分析や調査・実験などを通じて、最適解を導き、結果を振り返ることで、批判的思考力、リサーチ力、コミュニケーション力などの育成を目指すものです。

この総合的な探究の時間における取り組みが評価され、本校は、令和3年度から5年度までの3年間にわたり、三菱みらい育成財団からの助成を受けることになりました。この助成事業は、生徒一人ひとりの個性と可能性を引き出し、自ら問い、考え、行動できるような若者を育てようというものです。

財団の理事長と選考委員長との対談のなかに、STEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)教育の必要性についての言及があり、そこで「判断」と「決断」の違いが述べられています。必要な情

報を集め、セオリーとフレームワークに基づいていればできることが「判断」であり、これはAIにもできることとしています。一方、情報が不完全な状態、いろいろな制約があるなかで物事を決めなければならないのが「決断」であり、これは人間にしかできないことであるとしています。そして、これには、論理はもちろん、アートに関わる感性、歴史、教養など、あらゆる力を幅広く磨き、「悔いの少ない」決断ができるような総合力が大切であると述べられています。

先日、本校から2名の生徒が第15回全日本高校模擬国連大会に参加しました。「核軍縮」を議題に、代表となった国の実情を背景に他国と交渉し、共同で決議案を発表するというもので、そのために2日間で10時間以上にもわたる議論に挑んだこと、大会終了後であっても、二人の議論は尽きることがなかったことなど、大変な刺激を受けたとの報告を受けました。

さらに、名古屋大学によるサイエンスプログラム「名大MIRAI GSC」に自ら応募し、研究の最前線を経験するため、専門的な講義を受けたり、他校の生徒との研究結果をプレゼンしたりすることに挑戦している生徒もいます。

このように、自ら率先して知の世界に飛び込み、知識の活用を試みることは、授業で学んでいる内容の定着はいうまでもなく、明確な目標を持つて次の学びに向かう姿勢に確実に結びついていくと考えています。参加した生徒が、経験したこと学んだことを西高での学びに還元してくれることで、本校の学びがさらに深まることを大いに期待しています。無限の知の世界に挑戦する西高生のさらなる出現がこれからも楽しみです。

1年次が国際バカロレアの授業を体験しました

本年度から、西高で国際バカロレアの授業がスタートしました。授業は2年次生以降の選択科目なので、1年次生は、6月から10月にかけて全教科の授業を体験しました。また、10月には、2年次生の授業選択者によるレポート発表会にも参加しました。



授業を体験した生徒の感想

- 教科書に書いてあることも疑ってみる、疑問を持つことが大事ということが、すごく心に残っている。
- 実際に授業を受けている先輩方の話を聞いて、自分が思いつかなかったことまで広い視野で考えている説明がすごいと思った。
- 校内だけでなく、市や県など大きなところでのプロジェクトの話を聞き、企画し実行することが面白そうだった。

球技大会

10月8日(金)秋晴れの下、球技大会を実施しました。生徒会が中心となり企画・運営し、密にならない工夫をしつつ、全学年でスポーツを楽しみました。グラウンドではキックベース、バレーボール、室内ではポッチャやオンラインクイズ大会などを行い、大いに盛り上がりました。



留学生を受け入れています

Hello, my name is Yuki Ishihara. I have been attending Kofu Nishi High School since late August and it has been very fun. I come from Canberra in Australia. The first thing I noticed when I came here is that everyone was friends with everyone. It was surprising. Everyone seemed to be having a fun time and the teamwork is very strong. During my exchange, I would like to learn from this and I hope to be able to improve upon what I have learned in Australia as well. Therefore, I will enjoy my time here and will try my best at everything.

2年 石原 由喜



Kofu Nishi High School

山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1
TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164
URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2021.11 編集/広報委員会



*stage /steɪdʒ/

[[立っている場所]が原義] — ㊦ ㊧ ~s/-ɪz / ㊨

- 1 舞台、ステージ ◆世界の象徴
- 2 [活動の]舞台、場所 [for. of]
- 3 (発達・発展などの)段階、時期

用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)
2 N-stage 西高生の活動舞台